

# 「まちカフェ」に 吹く新風

まちカフェ実行委員

高橋 香さん



「誰かとつながってよかった」と思える  
ためのお手伝いがしたい」と高橋さん。

## 市

内で活躍する町内会・自治会などの地域活動団体やNPO同士が交流、またその活動内容を市民に発表する場として立ち上がったイベント「町田市市民協働フェスティバル」、通称「まちカフェ（まちだ地域活動カフェ）」が今冬第5回目を迎える。このまちカフェ、当初は個々の団体がブースを並べ、活動の紹介をするなどシンプルなものだった。しかし回を重ねる毎に、より市民に広く伝えられるように、より団体同士のコミュニケーションが築けるように、まちカフェ実行委員により様々な工夫が加えられていく。最近の例でいえばWebを使用した広報活動や、「カフェコーナー」の設置など。常に進化を続けていく上で、高橋さんのような若い実行委員の存在は大きいようだ。

2年前にまちカフェの実行委員となった高橋香さん。「生まれも育ちも町田（森野）で大学もたまたま相原の法政大学と、何かと町田には縁がある。だから大学で学んだ社会教育を、この町田でぜひ活かしたかった」ことが、きっかけだったのだという。とはいえ仕事をしながら何ができるのか……そんな時知ったのが、まちカフェの実行委員。内容を問い合わせると、その希望にピタリと沿うものだった。

高橋さんは前回、「ワールドカフェ！@町田」の立ち上げに尽力した。目的の「団体同士の交流」がうまく果たせていないと感じ、ワールドカフェを知り提案。ところがワールドカフェの存在を知らなかった実行委員たちに、この新しいイベントはなかなか理解してもらえなかった

という。しかし、あきらめることなく実際に体験してもらおう場を設けるなど努力を重ねた末、最終的には応援してもらえるまでになった。その成果もあり、昨年のまちカフェはかつてない集客を得る大盛況となった。今年、高橋さんがまちカフェで新たに提案するのは、参加団体を集めて行う事前説明会。「前回での学びや経験を活かし、参加団体同士が顔見知りになり、当日の交流がよりスムーズになれば」と、さらなる進化への構想に余念がない。

高橋さんはこの2年間で、大学で学んだ机上のものとは違う、経験してみなければ分からない本当の地域活動を知った。また自分の働きで、人と人を結びつけた」という喜びは「今後も続けていこう」という活力につながった。人に思いを伝えることの難しさという壁にぶつかかることもあったというが、それでも前に進んでいる。新風は今後も、まちカフェの発展に重要な存在であり続けるだろう。



「第5回まちカフェ」は、2012年1月29日（日）に開催。



昨年のまちカフェでワールドカフェの説明をする高橋さん（中央上）。  
実行委員はイベントの企画・運営を担っている。

※ワールドカフェ：カフェのようなリラックスした空間で席を移動しながら会話を楽しんだり、一定のテーマについて自由に意見交換をする場。  
※イベントの詳細はP30をご覧ください。